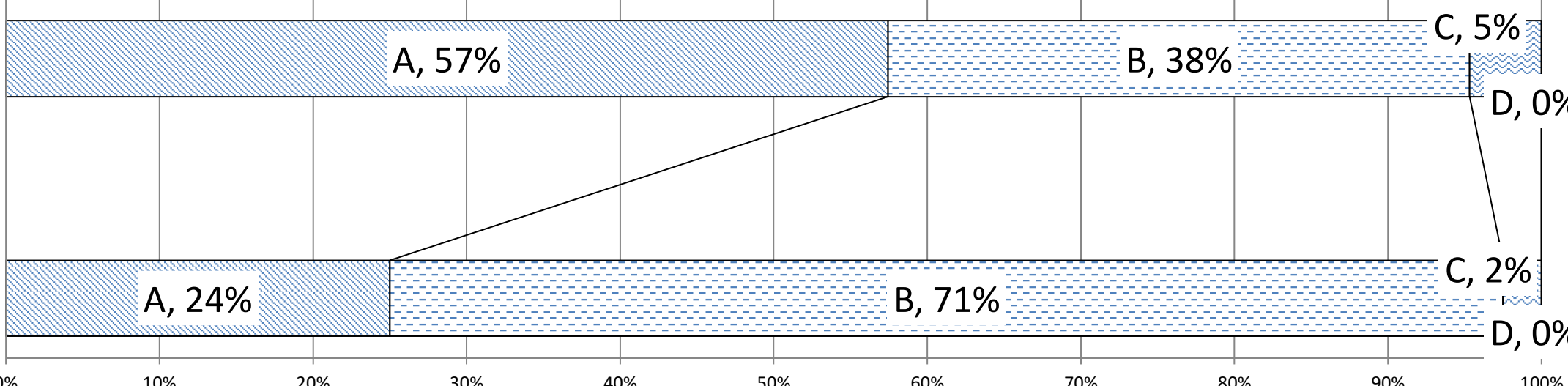
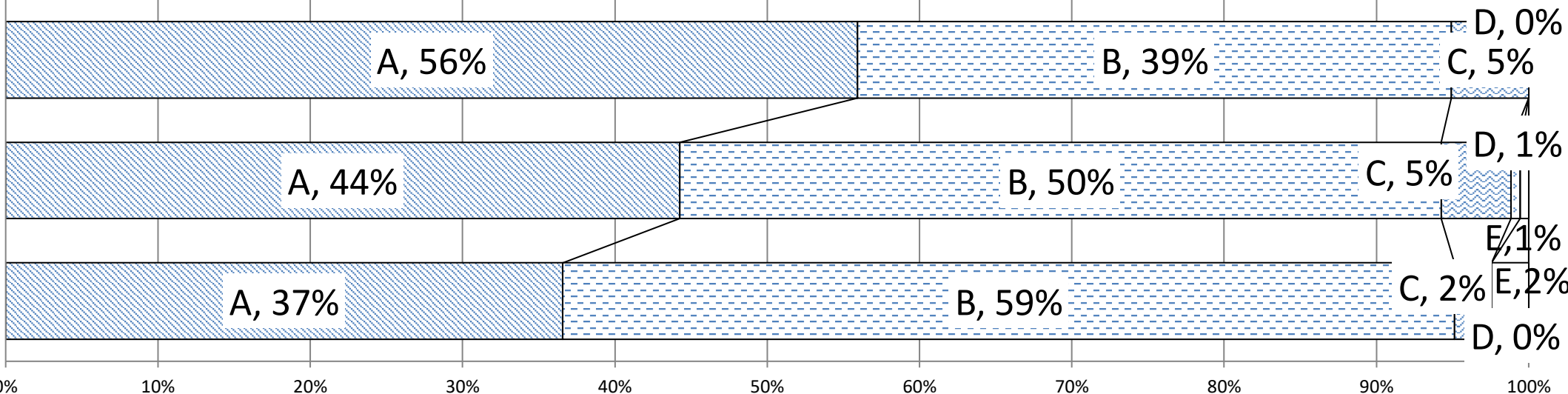


令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 1		＜教務部＞																					
生徒		保護者	教員																				
先生方はわかりやすい授業の工夫をしている。		-	あなたは授業の工夫改善に努めている。																				
結果	生徒	 <table border="1"><thead><tr><th>対象</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr></thead><tbody><tr><td>生徒</td><td>57%</td><td>38%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>24%</td><td>71%</td><td>2%</td><td>0%</td></tr><tr><td>教員</td><td>24%</td><td>71%</td><td>2%</td><td>0%</td></tr></tbody></table>		対象	A	B	C	D	生徒	57%	38%	5%	0%	保護者	24%	71%	2%	0%	教員	24%	71%	2%	0%
	対象	A	B	C	D																		
	生徒	57%	38%	5%	0%																		
	保護者	24%	71%	2%	0%																		
教員	24%	71%	2%	0%																			
原因及び反省	○教員の98%が肯定的な回答（A・B）となっており、1人1台端末の活用を含めて授業改善の意識が高い。生徒も95%が肯定的な回答をしており、先生方の工夫が生徒に伝わっていると考えられる。 ○一方で、教員の「B評価」が多いのは、さらに授業を改善したいという先生方の思いであると推察される。1人1台端末の活用や授業デザインの変更には、まとまった時間やエネルギーが必要であり、日々の多忙な校務において、もっと教材研究に割く時間を取りたいと感じている先生も多いのではないかと考えられる。																						
改善策	○ICT講習会や授業力向上研修などを通し、1人1台端末の活用方法や評価方法について、情報共有を行い、引き続き授業改善に努める。 ○先生方の働き方の改善を学校全体で検討していく。																						

意識調査No. 2		＜教務部＞																											
生徒		保護者		教員																									
学校は、基礎学力を高めるための取り組みを適切に行っている。		学校は、基礎学力を高めるための取り組みを適切に行っている。		学校は、基礎学力を高めるための取り組みを適切に行っている。																									
結果	 <table border="1"><thead><tr><th>対象</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>E</th></tr></thead><tbody><tr><td>生徒</td><td>56%</td><td>39%</td><td>5%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>44%</td><td>50%</td><td>5%</td><td>1%</td><td>0%</td></tr><tr><td>教員</td><td>37%</td><td>59%</td><td>2%</td><td>0%</td><td>2%</td></tr></tbody></table>					対象	A	B	C	D	E	生徒	56%	39%	5%	0%	0%	保護者	44%	50%	5%	1%	0%	教員	37%	59%	2%	0%	2%
	対象	A	B	C	D	E																							
	生徒	56%	39%	5%	0%	0%																							
	保護者	44%	50%	5%	1%	0%																							
教員	37%	59%	2%	0%	2%																								
原因及び反省	○生徒・保護者・教員ともに90%以上が肯定的な評価をしている。先生方の日々の授業、スタディサプリによる配信、放課後学習会など、それぞれの取り組みの成果であると考えられる。この取り組みが、成果として現れてくれば、更に基礎学力向上の実感を感じることができると思われる。																												
改善策	○朝の基礎学習において、取り組み状況に支援が必要な生徒が固定化されている。担任、副担任での指導に加え、教務担当も支援に入るなど、引き続き粘り強く指導・支援を続けていきたい。																												

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答

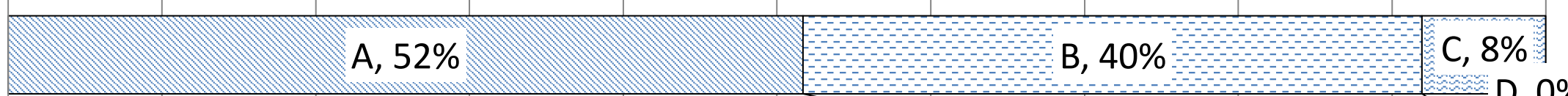
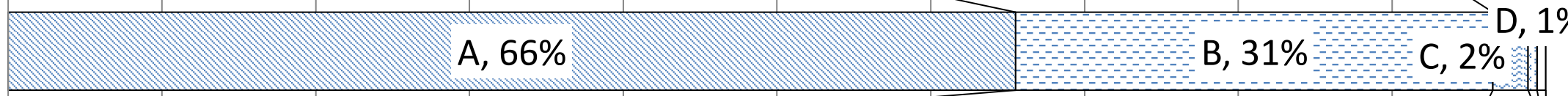
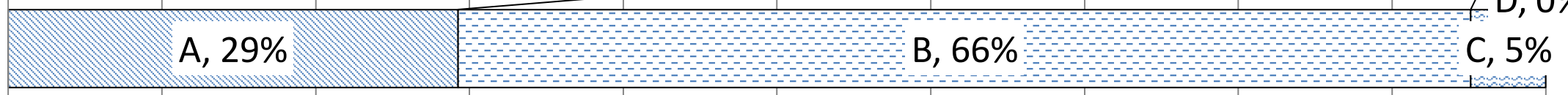
意識調査No. 3		＜教務部＞	
生徒		保護者	教員
あなたは、定期考査などに向け、計画的に学習に取り組んでいる。		お子さんは、定期的に家庭で学習に取り組んでいる。	あなたは、定期考査などに向け、計画的に学習に取り組めるよう指導をしている。
結果	生徒		
	保護者		
	教員		
原因及び反省	○教員の評価（A・B計90％）と生徒・保護者の評価（同約70％）の乖離が見られる。先生方は指導していると考えているが、一部の生徒には響いていない、または、学校以外で学習に取り組む習慣が一部足りない生徒もいることが考えられる。		
	○保護者からは「生徒から声をかけないとテストに関する内容や対策プリントなどの連絡がない」との意見もあり、教員側の計画的な指示も重要である。		
改善策	○考査範囲やテストに関する内容の周知を、考査1～2週間前に掲示等を含めて行う。		
	○学習計画の立案方法をLHR等で指導することも、検討の余地がある。		

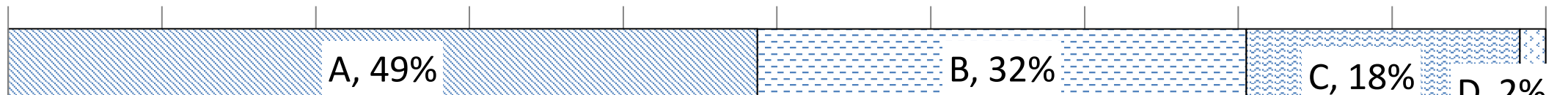
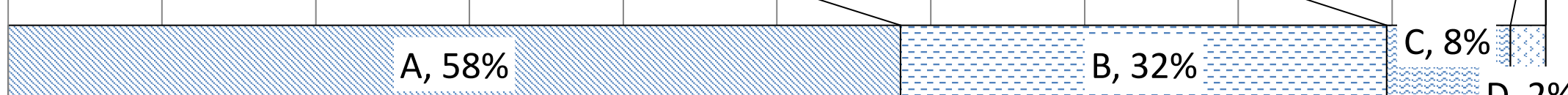
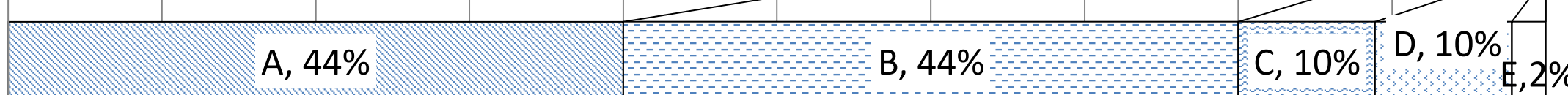
。

意識調査No. 4		＜生徒指導部・保健部＞																					
生徒		保護者	教員																				
あなたは、遅刻・欠席・早退をしないように心がけている。		お子さんが遅刻・欠席・早退をしないように努めている。	生徒が遅刻・欠席・早退をしないように日頃から指導している。																				
結果	<table border="1"><thead><tr><th>対象</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr></thead><tbody><tr><td>生徒</td><td>71%</td><td>25%</td><td>3%</td><td>0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>76%</td><td>20%</td><td>3%</td><td>-</td></tr><tr><td>教員</td><td>41%</td><td>51%</td><td>7%</td><td>-</td></tr></tbody></table>			対象	A	B	C	D	生徒	71%	25%	3%	0%	保護者	76%	20%	3%	-	教員	41%	51%	7%	-
	対象	A	B	C	D																		
	生徒	71%	25%	3%	0%																		
	保護者	76%	20%	3%	-																		
教員	41%	51%	7%	-																			
原因及び反省	○A・Bが生徒・保護者・教員とも90%を超えており、遅刻等への指導はおおむね出来ている。																						
改善策																							

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

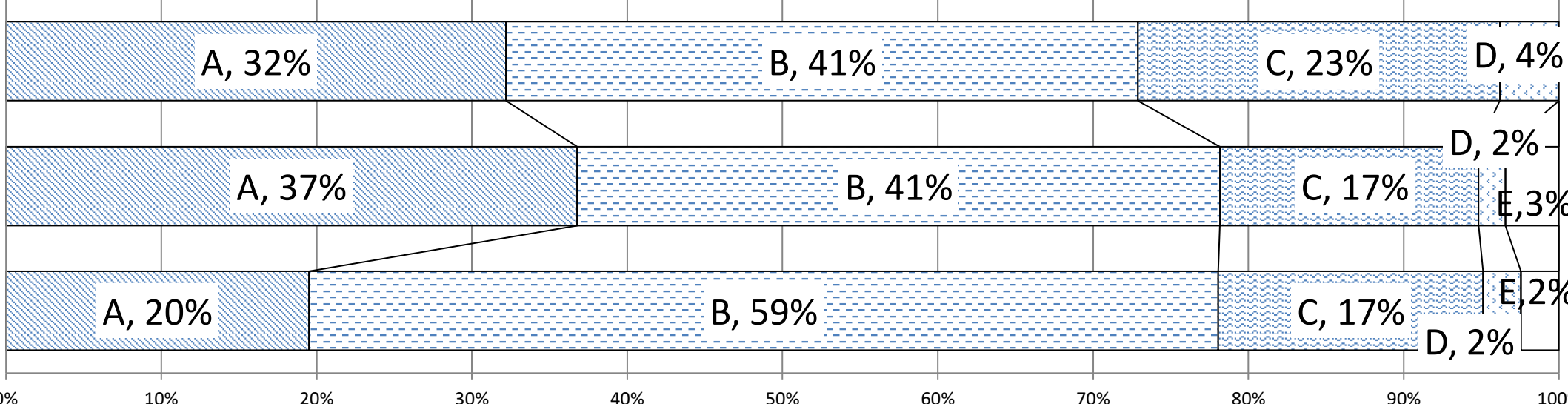
A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答

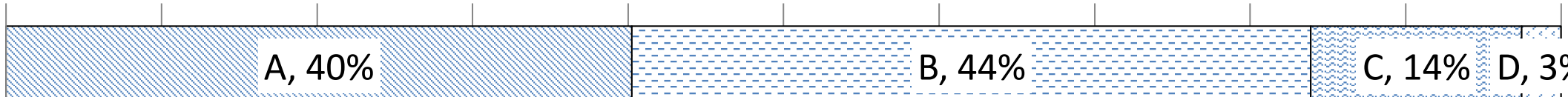
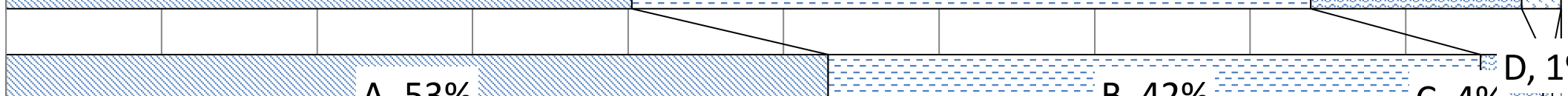
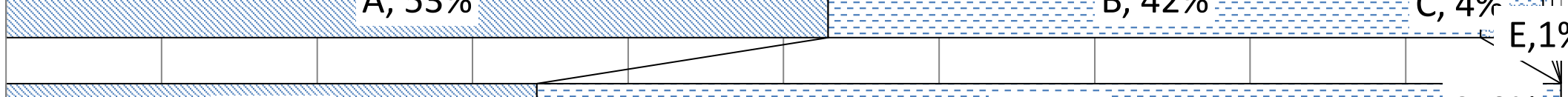
意識調査No. 5			＜生徒指導部＞		
生徒			保護者		教員
あなたは、進路を見すえた服装・頭髪など、自らの身だしなみを整えている。			学校は、進路を見すえた服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。		学校は、進路を見すえた服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。
結果	生徒				
	保護者				
	教員				
原因及び反省	○おおむね指導を理解していただいている。				
改善策					

意識調査No. 6		＜生徒指導部・農業部＞	
生徒		保護者	教員
あなたは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。		お子さんは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。	あなたは、生徒が部活動や農業クラブに積極的に参加して活動するように指導している。
結果	生徒		
	保護者		
	教員		
原因及び反省	○生徒の結果は80%を超えており、参加していることが伺える。		
改善策	○途中入部も各部受け入れている。周知は継続指導の意図が伝わる指導を心がける。		

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 7		＜生徒指導部・農業部＞	
生徒		保護者	教員
あなたは、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動している。		お父さんは、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動している。	
あなたは、伝統芸能活動に積極的に参加して活動するように指導している。			
結果			
	○生徒の回答は2，3年のみで分析すると、A・Bの割合は85%。生徒に意義は伝わっている。		
改善策			

意識調査No. 8		＜生徒指導部・保健部＞	
生徒		保護者	教員
あなたは、高校生活をとおして以前より自信が持てるようになった。		お子さんは、高校生活をとおして、以前より自信を持つようになった。	
あなたは、生徒が学校生活をとおして以前より自信が持てるような指導に努めている。			
結果	生徒		
	保護者		
	教員		
原因及び反省	○保護者から評価が高く、一定の評価はうかがい知ることが出来る。		
改善策	○一方、一部否定的な意見もあり、改善は必要。		

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 9		<進路指導部>																									
生徒		保護者	教員																								
学校は、進路に関する情報を十分に提供している。		学校からの進路情報を参考に、お子さんと進路に関する話をしている。	学校は、進路に関する情報を生徒・保護者に十分に提供している。																								
結果	<table><tr><th>対象</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>E</th></tr><tr><td>生徒</td><td>48%</td><td>45%</td><td>7%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>36%</td><td>51%</td><td>12%</td><td>1%</td><td>2%</td></tr><tr><td>教員</td><td>24%</td><td>63%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr></table>			対象	A	B	C	D	E	生徒	48%	45%	7%	0%	0%	保護者	36%	51%	12%	1%	2%	教員	24%	63%	10%	0%	0%
	対象	A	B	C	D	E																					
	生徒	48%	45%	7%	0%	0%																					
	保護者	36%	51%	12%	1%	2%																					
教員	24%	63%	10%	0%	0%																						
原因及び反省	○保護者のAとBの割合が生徒や教員より低い。学年別でみると、3学年ではほぼ全員がAとBを答えているが、2学年での割合が他学年と比べ低い。生徒から保護者へ「進路だより」が届いていないことと、家庭においても保護者と生徒とが話し合う機会が少ないことと思われる。																										
改善策	○三者面談のときに本校での進路情報やオープンキャンパスの案内、卒業生の進路状況のアーカイブなどを保護者へ提供する。特に、1，2学年からの取り組みが重要である。																										

意識調査No. 10		＜進路指導部＞																					
生徒		保護者	教員																				
あなたは、進路行事をとおして、進路についてより深く考えるようになった。		進路行事をとおして、お子さんと進路について話す機会が増えた。	生徒は、進路行事をとおして、進路についてより深く考えるようになった。																				
結果	<table><tr><th>対象</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr><tr><td>生徒</td><td>41%</td><td>46%</td><td>12%</td><td>1%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>33%</td><td>52%</td><td>14%</td><td>1%</td></tr><tr><td>教員</td><td>20%</td><td>61%</td><td>17%</td><td>0%</td></tr></table>			対象	A	B	C	D	生徒	41%	46%	12%	1%	保護者	33%	52%	14%	1%	教員	20%	61%	17%	0%
	対象	A	B	C	D																		
	生徒	41%	46%	12%	1%																		
	保護者	33%	52%	14%	1%																		
教員	20%	61%	17%	0%																			
原因及び反省	○全体的にAおよびBの割合が低い。上半期に主だった進路行事が実施されていなかったためと思われる。 ○AとBの割合が生徒・保護者より教員で低い。進路行事等は主に進路指導部の教員および学年の担任が担当しており、そのため学校全体で進路行事が見えにくくなっていると思われる。																						
改善策	○全職員で進路行事に関わる雰囲気（姿勢）をつくる。特に、2学期にある「インターンシップ」は全職員で関わっていただく。																						

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第1回） 分析

A：当てはまる（そう思う） B：だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C：あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D：当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 11		＜保健部・総務部・農業部＞																					
生徒		保護者	教員																				
学校は、安全な学習環境づくりに取り組んでいる。		学校は、安全な学習環境づくりに取り組んでいる。	あなたは、安全な学習環境づくりの指導に努めている。																				
結果	<table border="1"><thead><tr><th>対象者</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr></thead><tbody><tr><td>生徒</td><td>51%</td><td>42%</td><td>6%</td><td>0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>53%</td><td>42%</td><td>5%</td><td>0%</td></tr><tr><td>教員</td><td>46%</td><td>54%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr></tbody></table>			対象者	A	B	C	D	生徒	51%	42%	6%	0%	保護者	53%	42%	5%	0%	教員	46%	54%	0%	0%
	対象者	A	B	C	D																		
	生徒	51%	42%	6%	0%																		
	保護者	53%	42%	5%	0%																		
教員	46%	54%	0%	0%																			
原因及び反省	○現在のところは学校を安全な場所と捉えていただいているので維持していくが大切である。 ○「安全な学習環境」の安全とは、災害時、不審者侵入時、校舎・施設の安全性、熱中症の対応などいろいろ考えられるが、どのように捉えているかを知る必要がある。 ○特別な支援を必要とする生徒に対する対応などの研修会は実施している。																						
改善策	○実際に地震等の大規模災害や不審者侵入等が実際に起こったときに備えて対応マニュアルをもとに訓練を実施しておく必要がある。 ○今年度実施した救急救命講習などは教員には3年に一度は受講してもらい、万が一の場合に備えておく必要がある。																						

意識調査No. 12		＜総務部・農業部＞																									
生徒		保護者	教員																								
学校は、ホームページ掲載やメール配信などの情報発信に努めている。		学校は、ホームページ掲載やメール配信などの情報発信に努めている。	あなたは、ホームページ掲載に努め、メール配信を活用している。																								
結果	<table border="1"><thead><tr><th>対象</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>その他</th></tr></thead><tbody><tr><td>生徒</td><td>38%</td><td>45%</td><td>15%</td><td>2%</td><td>0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>44%</td><td>46%</td><td>9%</td><td>0%</td><td>1%</td></tr><tr><td>教員</td><td>2%</td><td>54%</td><td>34%</td><td>7%</td><td>2%</td></tr></tbody></table>			対象	A	B	C	D	その他	生徒	38%	45%	15%	2%	0%	保護者	44%	46%	9%	0%	1%	教員	2%	54%	34%	7%	2%
	対象	A	B	C	D	その他																					
	生徒	38%	45%	15%	2%	0%																					
	保護者	44%	46%	9%	0%	1%																					
教員	2%	54%	34%	7%	2%																						
原因及び反省	○生徒・保護者はホームページ等を見てくれている。各部署でより多くの情報を掲載する必要がある。 ○教員のAの割合が低いのは、ホームページの掲載の仕方がわからないやメール配信を送信できる教員が限られていることが考えられる。 ○ホームページの更新の減少の原因として働き方改革による時間外在校時間の縮減も考えられる。																										
改善策	○ホームページの掲載数を増やすためには、特定の教員が掲載するのではなく、全職員がローテーションで原稿をつくり掲載できるようにする。そのためには、Wordなどで行事の写真の掲載やコメントを書けるシートを作成や記事をホームページにアップする為の技術講習会を開催するも大切である。さらに、学校行事ばかりでなく、日々の授業風景など学校の様子を掲載できるとより多くの人に見てもらえるホームページになる。																										